

昭和52年度 技術開発実施計画書
報告

熊本 営林局 NO. 7

様式 1

課 題	種別	種別	種別	種別	担当課	土木課	開発所	対象地	期	自52年度 至55年度	予算区分	業務費 (技術開発)	経費	品名	数量	車両	金庫
													物件費	71ルム 標杭			
目 的	崩壊発生防止のための林道計画法												従務費	現場・焼付			
													労賃	臨時	36		
													計				
全体計画		実施経過		当 年 要 分													
				年度計画				実行結果				新面及び普及計画					
初取法面崩壊を少なくする為の日廻りの路線選定方法と設計の基準を作成し、九州における林道開設費の削減を図り合理的な林道建設費の投資を行うよう開発を行う。		1. 51年度 中生層地已 (小林市の日廻り林道) 自生層地已 (文部省の大山林道) の土質環境調査調査を行った。 この結果一応この地已に於ける林道計画法の日廻り法。		1. 自生層地已に於ける林道建設費の削減 (自生層地已及び大山林道) 2. 同地已に於ける土質環境調査調査 3. 同地已に於ける樹造物施設 4. 樹造物施設の調査 5. 路線計画に於ける簡易・市視ならぬに崩壊防止工法				1. 自生層地已 (11.4 層地已) 1.068m 全長2.68m 2. 大山林道 (11.4 層地已) 1.068m 3. 同地已に於ける土質環境調査調査 4. 同地已に於ける樹造物施設 5. 同地已に於ける樹造物施設の調査 6. 路線計画に於ける簡易・市視ならぬに崩壊防止工法				路線選定に於ける簡易・市視ならぬに崩壊防止工法 路線選定に於ける簡易・市視ならぬに崩壊防止工法 路線選定に於ける簡易・市視ならぬに崩壊防止工法 路線選定に於ける簡易・市視ならぬに崩壊防止工法					

昭和53年度技術開発実証計画書
報告書

様式4

原本 若林局 NO.8

課 題	事業 種別	事業 区分	経 費	担 当 課	土木課 技術開発班	開発箇所	中層地区 若生層地区	期 間	自53年度 至55年度	予算 区分	技術開発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
	事業 種別	事業 区分										初件費	植生帯材 オーガニック 肥料			
目 的	崩壊発生防止のための林道計画法と設計基準の開発を行う。											従価費	—			
												労 賃	10時	7人		
												計				
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 変 分												
				年 度 計 画				実 行 結 果				計画外改善計画				
切欠法面の崩壊を少なく すること並びに現地に適合 する構造物と求め、立地別の 路線選定方法と設計の 基準を策定し、これにお ける林道開林道用設備の 低減を図り、合理的な林道 施設費の投資を行うよう 開発をすすめる。		1. 51年度中層地区(小村着の 旧栗原林道)若生層(矢部着 の久保山林道)の土質環境 委託調査を行った。 2. 52年度は中層地区、若生層地 区の林道について (1) 林道施工の便態 (2) 切欠工所、盛土工の便態 (3) 構造物施工の便態 (4) 維持修繕の便態 (5) 路線計画にあつての留意 事項ならぬに崩壊防止工法 等の調査を実施した。		1. 若生層、若生層地区における林道 施工の51年度の合同実証調 査にもつぎ、更に状況調査 を行う 2. 構造物について、現地に適合す る工法の開発をすすめる。 3. 法面緑化については各種工法 を採用し調査する。				51年度の各種実証調査終了 後に、幾つか認められ、 若生層地区の林道において 法面緑化を次のとおり実施 (1) オーガニックを使用し法面 緑化工 (2) 人工土壌、種子吹付工法 (3) 護網ネット使用 この結果(1)は切欠の法面勾配 が急であるので不適当であつた。 (2)は、法面が小さい崩壊を抑え 安定な緑化も良きである。				路線決定にあつて、この調査内容 に基づき計画を すすめること。将来 林道維持費の削減、林道 保全に資するもの 大々的な調査、施 工上の問題あり。 更に、同地区の 構造物、調査を 詳細に行なり調査 のうえ、計画を はかりたい。				

様式 2

昭和 54 年度 技術開発実施計画書
報告

熊本 営林(業)局

課 題	継続 新規	継続	経常 特別	経 常	担 当	土木課 技術開発室	開発箇所	中生層地区 古生層地区	期 間	自52年度 至56年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
													物件費				千円
目 的	6. 林道開設による法面崩壊防止法												役務費	土木構築費			
													人件費		人		
													計				
全 体 計 画		実 施 経 過		当 年 度 分													
				実 施 計 画				実 施 結 果				評価および普及計画					
切取法面の崩壊を少なくすること。 並に現地に適合する構造物を求め開設費の低減を図り、合理的な林道建設費の投資を行うよう開発とすすめる。		51年度中生層地区(小森署の白髪岳林道)古生層(天部署の久良林道)の上質環境委託調査を行った。 52.53年度は 1. 中生層、古生層地区に於ける林道施工の実態 2. 同上地区に於ける切上ヶ所及び盛土ヶ所の実態 3. 同上地区に於ける構造物施工の実態 4. 附帯修繕の実態 5. 踏線計画にあつたの留意事項ならに崩壊防止工法等の調査を実施した。		1. 中生層、古生層地区に於ける林道施工の各種実態調査にもとづき更に状況調査を行う。 2. 構造物については、現地に適合する工法の開発を進める。 3. 法面勾配を工夫し、又緑化工についても各種工法を採用し調査する。 4. 降雨時の路面排水を促し、盛土構造物への水の影響を抑制する。なお、排水施設について、各種類型のものを経済的の面より開発する。				1. 52年度の各種実態調査終了(小森署の白髪岳林道、天部署の久良林道)特に、変化は認められぬ。 2. 55年度継続工法の開発を進める。 3. 53年度久良林道で実施した法面緑化工(オーガニックを使用法面緑化工、並に人工土壌、種吹付工法)はその後順調に緑化ははかられ法面が安定している。 4. 白髪岳林道において路面排水をはかるため、ガレを利用した止水横断溝を6ヶ所設置したため、今後の降雨時における排水機能を開発している。				今後にも実態調査をすすめるとともに、現地に適合する工法を開発していく。 法面緑化についても土質、地形等を考慮して最も適合した工法を採用する。 又、路面排水施設も現地に適合し、かつ経済的のものの開発をすすめる普及をはかりたい。					